



住民の思いが形に「日向里かふえ」(2022年4月11日)

先日、鳥海山の麓にある酒田市日向（にっこう）地区の「日向コミュニティセンター」を訪問しました。

この地区では、住民主体の地域づくり活動が活発に行われています。

2009年、日向小学校が閉校となり、住民の間には「地域が廃れてしまうのでは」という危機感が生まれていました。

地域が元気であるため、人々が集う場所づくりのため、ワークショップ形式での話し合いを始めたところ、徐々に「できることからみんなで解決していこう」という動きが活発になり、現在も様々な活動が継続されています。

その中のひとつが、旧小学校の校舎を活用した「日向里（にっこり）かふえ」です。

日替わり店長方式を採用するこのカフェでは、地域のお母さん達・東北公益文科大学の学生・地区の飲食店主など、幅広い世代が活躍しています。

子供からお年寄りまで、気軽に立ち寄ることができる憩いの場となっておりますので、ぜひ訪れてみてください。

(※お立ち寄りの際は、営業日をご確認ください。)

【投稿：庄内総合支庁農村計画課 池田】





第31回 農業農村整備事業広報部門 優秀賞 受賞！(2022年5月9日)

全国農村振興技術連盟が主催する「令和3年度農業農村整備事業広報大賞」にて、「庄内農村整備のいまがわかる N.N.REIKO」の取り組みが見事、**優秀賞**を受賞しました。

広報大賞は、農業農村整備事業に係る広報活動の面で特に顕著な功績のあった団体を表彰しているもので、令和3年度で31回目になります。

各地方協議会長から推薦があった30団体、30活動のうち、広報大賞2団体、優秀賞8団体、ほか各賞受賞団体が決定し、4月27日に表彰式が行われました。

N.N.REIKOは令和3年度で12年目を迎え、発信内容を「事業効果」「共同活動」「環境配慮」「事業トピック」の4分野に絞り、HPもリニューアルしたことや、Facebookを活用した発信も行ったことで、閲覧数が大きく伸びるなどの成果が見られました。

この取り組みが認められ、全国数ある団体の中から優秀賞に選ばれたことは、今後の広報活動の励みになります。

引き続き、N.N.REIKOと庄内プロジェクトAチームをどうぞよろしくお願いいたします。

【投稿：庄内PJA 菅野】





赤カブの花咲く海の棚田(2022年5月11日)

やまがたの棚田20選を御存知だろうか。山形県内で唯一、海が見える「暮坪（くれつぼ）」の棚田もその一つ。

4月下旬、棚田のり面に鮮やかな黄色い花が咲き乱れていました。

棚田頂上から見る鶴岡市温海近くの日本海は、凧で青くキラキラと太陽の光を反射し、棚田景観を一層引き立てていました。

棚田ファンはもちろんのこと、一度はこのワンダフルビューをご覧あれ！

【投稿：庄内PJAリーダー 足達】





これぞ秘境、越沢の棚田(2022年5月16日)

鶴岡市温海温泉から、県道348号線と国道345号線を走り山間に入った「越沢（こえさわ）」の棚田を御存知だろうか。

「こんな山奥に、こんなに広大な棚田があるなんて！」驚愕すること間違いなしです。

4月下旬、ようやく雪解けが進み、秘境の棚田での農作業がまもなくスタートします。

(写真1枚目：山間にひっそりと佇む秘境の棚田、写真2枚目：こちらの棚田は一面そば畑になります)

【投稿：庄内PJAリーダー 足達】





家根合「めだか米」の田植え (2022年5月25日)

庄内町家根合の「めだか米」の水田で、余目第一小学校4年生と地域の方々が田植えを行いました。

家根合地区では、平成11年のほ場整備事業をきっかけに、地区に生息するメダカの保全活動が始まりました。

子供たちは初めての田んぼの感触に戸惑いながらも、全身泥だらけになって元気に田植えをしました。

【取材：庄内PJA 遠田】





(第728回)

山あいの田んぼを復活させる協働活動を行いました(2022年6月3日)

鶴岡市羽黒町の農地・水・環境保全組織手向(とうげ)地区保全会が中心となり、耕作していなかった山あいの田んぼを復活させる協働活動を行いました。

耕作していなかった田んぼは草木に覆われているため、重機を使って整地します。

その後蕎麦を栽培し、来年は田植えを行う予定です。

この田んぼは、羽黒山や月山高原牧場を訪れる多くの観光客が目にする場所です。

「景観が悪い田んぼを放置することは出来ない」と手向地区保全会が立ち上がり、土地の所有者と手向地区農地組合が協働して取り組んでいます。

【取材：庄内PJA 北川】





農地整備事業「畑地区」いよいよ着工！(2022年6月8日)

畑地区（飽海郡遊佐町北目）では、生産性向上や農地集積を目的とした区画整理工事が今年度から本格的に着手します。

そのため工事が本格化する前に、その土地の守護神を祀る神事「起工式」が執り行われました。

地鎮の儀では「えい、えい、えい！」の掛け声とともに、主催者の畑地区県営農地整備事業推進協議会、庄内総合支庁、工事施工業者の各代表が、盛砂にそれぞれ鎌、鍬、鋤をいれ、工事の順調な進捗と安全を祈願しました。

待ちに待った35haの区画整理がいよいよ始まります。

【取材：庄内総合支庁農村整備課 長南】





これからの水田の水管理はICT化 (2022年6月15日)

鶴岡市湯野沢地域にある「栄第4揚水機場」からパイプラインにより約30haに配水されている水田では、国営赤川二期地区ICTモデル事業で整備された、ポンプ施設と水田の給水施設が連動する水管理システムが稼働しています。

水田に設置した自動給水栓をスマートフォンやタブレットで、遠隔操作・自動制御できるとともに、自動給水栓の開閉状況から各水田の水需要を算出してポンプ運転を自動制御できるため、水管理の省力化や節水効果が図られています。

【取材：庄内PJAチーフ 佐藤(和)】



遊佐町の健全な水循環を後世に残す取組み (2022年6月23日)

遊佐町では、4つの農地・水・環境保全組織が水質モニタリングを行っています。

今年も、鳥海山を水源とする洗沢川、高瀬川、月光川、日向川の流域12カ所で水質の動向調査を実施しました。

そして分析結果を町民に説明し、健全な水循環の保全について普及・啓発を行います。

鳥海山には無数に湧き水があり、水道水源や農業用水として利用されています。

遊佐町は、全国に先駆けて、水循環の保全条例を制定し、鳥海山の恵みを後世に残す取組みを続けています。

【取材：庄内PJA 北川】



地すべり防止区域の維持管理 (2022年6月28日)

鶴岡市朝日地域にある七五三掛（しめかけ）地区では、平成21年2月から4月にかけて発生した大規模な地すべりにより、農地や住宅が甚大な被害を受けました。

平成22年度～平成30年度に、地すべり発生の原因の一つである地下水の排除工事等が行われ、地すべりは沈静化しました。

現在も継続して地すべりの監視と施設の維持管理を実施し、地域の安心安全を図っています。

【取材：庄内PJAチーフ 佐藤(和)】



←トンネル内部の様子



←内部の様子





地域外の農的関係人口を拡大する 月山高原種まきイベント (2022年7月6日)

鶴岡市羽黒町の月山ろく環境保全会（事務局 株式会社アイディア）が、月山高原の畑作団地でサツマイモと里芋の苗植えを行いました。

タウン情報誌を利用して参加者を募集したところ、市内外から子ども連れの家族ら56人の申し込みがありました。

畑作団地は標高200mにあり、朝晩の寒暖の差があるため作物がおいしく育ちます。

また、眼下に広がる庄内平野はため息が出るような美しさです。秋には収穫祭を予定しています。

【取材：庄内PJA 北川】





生き物調査～岩野地区～ (2022年7月14日)

今年度も生きもの調査が始まりました。

鳥海山からの湧水が流れこむ遊佐町岩野地区では、イワナやニホンアカガエル、スナヤツメなどを見つけることができました。

今後、地域の皆さんと環境に配慮した事業計画を検討していきます。

【取材：庄内PJA 八畝】





元気に育ちますように (2022年7月20日)

笹川土地改良区では、21世紀土地改良区創造運動として「水源林を守るブナの植樹」を実施しており、羽黒小学校と連携した植樹活動を行っています。

3年ぶりに開催された今回は、5年生39人が改良区や市、県職員のアドバイスを受けながら、昨年9月から学校で育てた苗木を1本ずつ植樹しました。

スコップで50センチメートルほどの深さの穴を掘り、添木を建てて優しく土をかぶせて水をかけ、最後に自分の名前を書き込んだプレート添えて作業は終了しました。

植樹したブナが10年後、50年後に大きく育ち、豊かな森になることを期待します。

【取材：庄内PJAチーフ 佐藤(和)】





自然災害に備えて (2022年8月3日)

豪雨や融雪により農地や農業用施設が被災すると、国の補助を受けて災害復旧工事が行われる場合があります。

当課では、災害復旧工事の実施主体となる土地改良区や市町担当者を対象として、災害査定から工事着手までの流れを現場で実演する研修会を行いました。

参加者からは、実際の災害査定を想定した質問が活発に寄せられました。

土地改良区、市町村、県、国、様々な組織が力を合わせて、農地や農業用施設の災害復旧に取り組んでいます。

【取材：庄内PJA 渡辺】





青空に映える色鮮やかな花壇 (2022年8月10日)

鶴岡市の馬町米出（うままちよねで）地域保全会は、多面的機能支払交付金による景観形成活動に取り組んでいます。県道脇の農道と水路敷地を活用して可憐な花を植栽しており、地域の構成員がきれいに手入れしています。夏の青空に色鮮やかな花壇が映えて、通行するドライバーの心を和ませてくれます。

【取材：庄内PJA 北川】





ほ場整備事業「畑地区」工事着手！(2022年8月17日)

2022年5月26日（木曜日）に起工式を行った遊佐町畑地区では、工事が本格始動しています。

この時期は表土剥取や基盤造成など、ほ場整備の要である整地作業が行われており、毎日多くの重機を動かしながら、安全かつ慎重な施工に努めています。

受注者や地元の方々のご協力を得ながら、完成に向けて工事を進めていきます。

起工式の様子はこちらから↓

[第729回 農地整備事業「畑地区」いよいよ着工！](#)

【取材：庄内PJA 安食】





「第1回藤井みらい創造会議」開催！（2022年8月25日）

2022年7月24日（日曜日）、遊佐町藤井で住民50名ほどが参加する「地区の宝探しワークショップ」を開催しました。

今回は集落周辺をめぐり、強み・弱み・活用できるもの・今後不安なことを探しました。

強みとしては「花火・日本海まで一望できる景観・人のつながり」などがあげられました。

昼食は地区のお父さん方が、地元食材を使った彩り豊かな「魅惑の棚田カレー」を振舞ってくれました。

第2回ワークショップでは、藤井の明るい未来に向けた話し合いが行われます。

【取材：庄内PJA 菅野】





「第2回藤井みらい創造会議」開催！（2022年9月1日）

2022年8月28日（日曜日）、遊佐町藤井地区で「明るい未来づくりの提案ワークショップ」が開催されました。

第1回で見つけた「藤井の強み・弱み・活用可能な資源・今後不安なこと」を、「強さを維持していく・弱さを強さに変える・資源を活かす・不安を解消する」ための提案を出し合いました。

提案内容には「日本海まで一望できる場所にキャンプ場を整備して、地元の米や野菜を売る」など、実現が楽しみなものがたくさんあり、参加者からは「藤井のことを改めて考えるいい機会だった。」という声をいただきました。

今後、提案内容の実現に向けた行動計画を作成し、報告会での発表を予定しています。

★第1回の様子はこちらから—「[第1回藤井みらい創造会議](#)」開催！

【取材：庄内PJA 菅野】





ミズバショウの保全活動 (2022年9月14日)

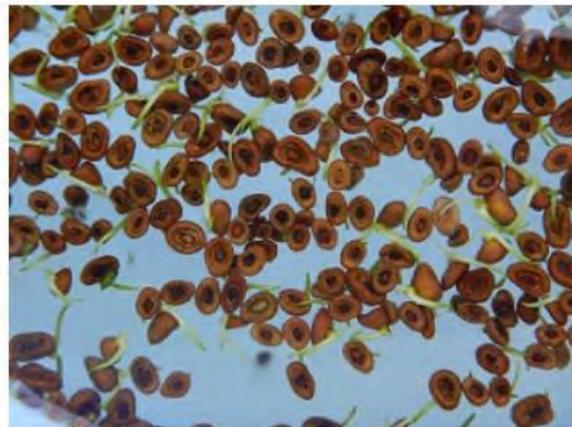
鶴岡市西郷地区には、平野部ではあまり見られないミズバショウが群生しています。

平成21年のほ場整備事業をきっかけに、毎年、西郷小学校の6年生が西郷土地改良区の指導のもとでミズバショウの保全活動を行っています。

気温が高かった今年は例年の4分の1程度しか種が採れませんでした。7月に播種作業を行いました。

9月中に、ポットからプランターへの植え替えを予定しています。

【取材：庄内PJA 菅野】





集落組織の広域化による扶助体制の強化 (2022年9月20日)

三川町広域協定運営委員会（会長 齋藤学さん）は、多面的機能支払交付金を利用して、水路の泥上げや農道の草刈り、集落の景観形成活動などを実施しています。

また、町内の小学校と連携し、手作業による昔ながらの伝統的農法を行う農業体験活動も実施しています。

高齢化が進む小規模な16組織が広域化したことで事務局体制が充実し、継続困難となっていた活動が効率的に行えるようになりました。

【取材：庄内PJA 北川】



田んぼダムによる防災・減災の取組み (2022年9月28日)

鶴岡市藤島地域の農地・水・環境保全組織「いなばエコフィールド協議会」は、多面的機能支払交付金を利用して、田んぼダムによる防災・減災に取り組んでいます。

田んぼダムは大雨の時、水田に降った雨を一時的に貯留させ時間をかけてゆっくりと下流に流すので、一度に川に流れる水量を減らすことができます。

令和3年度は972ヘクタールの水田で田んぼダムに取組み、令和4年度は1,111ヘクタールまで拡大しました。

農家の意識改革を図りながら、地域の流域治水につながる田んぼダムを積極的に普及拡大しています。

【取材：庄内PJA 北川】



★みんなで取り組もう★
田んぼダムによる防災・減災
 農地・水・環境保全組織いなばエコフィールド協議会

田んぼダムの仕組み

【降雨時、田に流れる水量の変化】
 田様のある場所では、雨量を貯留することができ、一度に川に流れる水量を減らすことができます。

田んぼの湛水状況

水位調整板の設置状況

本地区では、稲刈後、個々の農家が簡易的に塩ビ管やビニール管を設置し排水対応を行っていたが、近年、発生頻度が増している豪雨の際には、排水対応と排水施設等の保全に苦慮し、排水溝の洗掘や法面崩壊が発生していた。このため、排水溝と法面の補修を行うとともに、水田の排水口に調整板を設置して水田の貯留機能向上を図ることで、大雨時のダム的な貯留効果を発揮している。

田んぼダムの実施時期（5～7月）と効果

| 時期 | ①代かき期 |
|-----------|---------------------|
| 田面状況 | 湛水している。 |
| 水田貯留機能 | 水田に降った雨は、そのまま排水される。 |
| 田んぼダム効果 | 無（小さい） |
| 突発的な豪雨発生時 | そのまま排水される。 |

| 時期 | ②中干し期 |
|-----------|-------------------------------|
| 田面状況 | 湛水していない。 |
| 水田貯留機能 | 水田に降った雨は、一時的に貯留されて、ゆっくり排水される。 |
| 田んぼダム効果 | 有（大きい） |
| 突発的な豪雨発生時 | 一時的に貯留されて、ゆっくり排水される。 |

多面的機能支払交付金農地維持支払活動の写真を必ず撮ろう!!
 『ここがエッセンスポイント』

春

夏

秋